

平成27年度 第1回学校アンケートの結果&考察

東大阪市立英田北小学校

○4～6月の教育活動について点検を行い、今後の改善に生かすことを目的として7月に実施。

○各設問の集計結果を「多変量解析」という手法で算出した数値で表記。算出方法及び値の解釈は次のとおりです。(本市学習等状況調査でも使われている手法です)

〔今回、学校教育と関わり深いカテゴリーを設定し、それに関係する質問項目の多変量解析値の平均も求めてみました。〕

【多変量解析値の算出方法及び値の解釈】

$$\left(\text{より肯定的な回答数} \times 1 + \text{肯定的な回答数} \times 0.5 + \text{否定的な回答数} \times (-0.5) + \text{より否定的な回答} \times (-1) \right) \div \text{全回答数} \times 100$$

*上の式により、多変量解析の最低値は「-100」、最高値は「+100」。

*「0」の時で賛否五分五分のときの値となります。今回は便宜上、以下のように本校独自に値を解釈しています。

- ・「+60以上」(+60は、順に45%,45%,5%,5%の時に相当) → かなり評価(かなり認識)
- ・「+45以上60未満」(+45は、順に40%,40%,10%,10%の時に相当) → 一定評価(一定認識)
- ・「+15以上45未満」(+15は、順に30%,30%,20%,20%の時に相当) → さらに工夫を要する
- ・「+15未満」 → 取組内容や取組方法の再検討・見直し、あるいは取組の更なる推進が必要

*誤差を考慮して、前年度(第1回)との差が±15までは、同程度の値と見なせると考えていますが、±8～±15の範囲の場合に、表中であえて「やや↑」や「やや↓」の表記を行っています。

第1回 学校アンケート結果

○児童(1～6年一括) 回収率 96%

		H27学校アンケート①【児童】 (高学年・低学年共通の設問は、高学年用文面で表記)	
		今回	前年度比較
共	1	友達や先生、愛ガードなどの人達とあいさつができています。	78 やや↑
共	2	英田北小は、きれいにそうじができていて、気持ちよく過ごせる。	51 やや↑
共	3	朝の学習や読書に、しっかりと取り組んでいる。(1時間目が始まる前に行うプリント学習などのことです)	77 →
共	4	授業は、わかりやすい。	69 →
共	5	授業などで自分の考えをまとめたり、発表したりすることが多い。	31 やや↑
共	6	授業で友達の発表を終わりで聞いて、質問したり自分の意見を言ったりすることができている。	54 やや↑
共	7	命の大切さや人の気持ちを考えること、ルールを守ることなどについて勉強することがある。(ふれあい広場・遠足・社会見学などの時も含む)	75 →
共	8	委員や係、当番(日直・給食・そうじ)などの役割をしっかりと果たそうとしている。	85 →
共	9	学校生活の中で、みんなと協力することの良さやみんなの思いやりに気づくことがある。	66 やや↑
共	10	授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	47 やや↑
共	11	先生は、わたしたちの意見を聞いてくれる。	74 →
共	12	先生は、がんばったことをほめてくれる。	67 →
共	13	学校で困ったことがあったら先生に相談できる。	45 →

高	14	困ったことがあれば、友達や家の人に相談できる。	53	→
高	15	将来の夢や目標を持っている。	78	やや↑
		習慣規律 [1, 2, 3, 6, 7, 8]	70	→
		学習指導 [4, 5, 6, 7, 10, 12]	57	→
		教師児童関係 [10, 11, 12, 13]	58	→
		児童相互関係 [6, 8, 9, 14]	64	やや↑

- ・15設問中、「+60以上」が9項目、「+45以上」だと14項目、残り1項目も「15以上+45未満」。前年度同期に比べ「評価・認識」がやや上昇している設問が半数近く。
- ・「学習活動(設問5)」については、「認識・評価」が回復傾向にあるものの、引き続き課題。
- ・分野別でみた場合、全分野が「かなりの評価・認識」に達するまであと一息。

○保護者 回収率 88%

		H27学校アンケート①【保護者】	
		今回	前年度比較
1	学校は、児童が「思いやりを備え、自他共に大切にできる」「協力しあおうとする」よう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	51	→
2	学校は、「頑張ってきた」や「自分にだって結構いいところある、他の人たちに少しは役立っている」といった気持ちを児童が持てるよう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	48	→
3	学校は、「すぐにはあきらめず最後までやり遂げよう」とする気持ちを児童が持てるよう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	44	→
4	学校は、まちがった行動への指導や、(社会の)ルールを守ろうとする意識を高める取り組みを行っている。(行事等も含めて回答ください)	52	→
5	学校は、保護者・地域の願いに応えている。	32	→
6	学校は、いじめのない学校づくり(集団づくり・つながり)に取り組んでいる。	33	→
7	学校は、児童の安全確保、事故防止に取り組んでいる。	61	→
8	台風などの場合の学校対応(集団下校を含む)について、保護者は知らされている。	86	→
9	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	60	→
10	学校は、教育活動(各種取組、学習内容、進捗等)を、学校・学年・学級たよりやHP、その他によってわかりやすく伝えている。	61	→
11	子どもは、授業がわかりやすいと言っている。	46	→
12	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	64	→
13	先生は、子どもをよく理解してくれている。	51	→
14	先生は、子どものことについての相談に応じてくれる。	57	→
15	先生は、子どもの人権を大切に指導にあたっている。	54	→
教育活動 [1, 2, 3, 4, 6, 11, 15]		47	→
学習指導 [11]		46	→
安全安心 [6, 7, 8, 15]		58	→
信頼 [5, 6, 9, 12, 13, 14, 15]		50	→
公開 [8, 10]		74	→

- ・15設問中、「+60以上」が5項目、「+45以上」だと12項目、残りはすべて「+15以上+45未満」。一昨年度の結果を大幅に上回った昨年度同期の結果を維持。分野別の結果においても同様。
- ・「願いへの対応(設問5)」「いじめのない学校づくり(設問6)」の「評価・認識」の値は、ともに初の30超とはいうものの、依然と課題。

～裏面にも掲載しております。ご覧ください。～

内容が共通する項目における児童、保護者、教職員の回答結果

注) 表中「前回差」とは、前年度(第1回)の値との差のこと

【めざす子ども像関係】

		今回	前回差			今回	前回差
保護者	学校は、「頑張ってきた」や「自分だに結構いいところがある」、「自分集団や社会に少しは役立つ」などといった気持ちを児童が持てるよう取り組んでいる。(運動会など各種取組も含めて回答ください)	48	→	保護者	学校は、児童が「思いやりを備え、自他共に大切にできる」「協力しあおうとする」よう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	51	→
教職員	本校は、児童に「達成感や自己肯定感」を醸成できるよう取り組んでいる。(各種行事の内容も含む)	68	→	教職員	本校は、「思いやりを備え、自他共に大切にできる子」の育成に取り組んでいる。(ひまわり学級交流も含む)	75	→
保護者	学校は、「すぐにはあきらめず最後までやり遂げよう」とする気持ちを児童が持てるよう取り組んでいる。(児童会活動や行事等も含めて回答ください)	44	→	児童	友達や先生、愛やカードなどの人達とあいさつができています。	78	やや↑
教職員	本校は、「すぐにあきらめたり、逃避したりしない子」の育成に取り組んでいる。	63	やや↑	児童	命の大切さや人の気持ちを考えること、ルールを守るなどについて勉強することがある。(ふれあい広場・遠足・社会見学などの時も含む)	75	→
児童	先生は、がんばったことをほめてくれる。	67	→	児童	学校生活の中で、みんなと協力することの良さやみんなの思いやりに気づくことがある。	66	やや↑
児童	委員や係、当番(日直・給食・そうじ)、ふれあい広場などの役割をしっかりと果たそうとしている。	85	→				
児童(高)	将来の夢や目標を持っている。(高学年)	78	やや↑				

本校の「教育目標」や「めざす子ども像」に関係した設問。児童と教職員の値(認識・評価)は全体的に高い。教職員がねらいを明確にして教育活動を進めていること並びに児童にはねらいが着実に反映していることがうかがえる。

【子ども理解】

		今回	前回差
保護者	先生は、子どもをよく理解してくれている。	51	→
教職員	教職員は、一人ひとりの子どもを生活背景も含めて理解し、寄り添おうとしている。	79	→

教職員の「評価・認識」は高い値で維持。保護者からもそれなりの評価(認識)は得られている。

【児童との関係・生活指導】

		今回	前回差			今回	前回差
児童	先生は、わたしたちの意見を聞いてくれる。	74	→	児童	学校で困ったことがあったら先生に相談できる。	45	→
保護者	先生は、子どものことについての相談に応じてくれる。	57	→	教職員	子どもは、いろいろなことを気軽に先生に相談することができる。	41	→
教職員	教職員は、子どもの話や意見をよく聞いている。	67	→				

「子どもの意見への傾聴」に関しては児童、教職員ともに「高い評価(認識)」。「相談」に関しては、児童においてようやく「一定評価(認識)」まで達したが、さらに改善が必要。

【道徳性・人権尊重】

		今回	前回差			今回	前回差
児童	命の大切さや人の気持ちを考えること、ルールを守るなどについて勉強することがある。(ふれあい広場・遠足・社会見学などの時も含む)	75	→	保護者	先生は、子どもの人権を大切に指導にあたっている。	54	→
保護者	学校は、まちがった行動への指導や、(社会の)ルールを守ろうとする意識を高める取り組みを行っている。(行事等も含めて回答ください)	52	→	教職員	体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている。	58	→
保護者	学校は、いじめのない学校づくり(集団づくり)に取り組んでいる。	33	→				
教職員	学校は、道徳の時間及び教育活動全体を通して、道徳的心情や規範意識の育成を図っている。	30	→				
教職員	重点課題である「集団づくり」を意図した教育活動が各学年・学級で取り組んでいる。	66	→				
教職員	いじめや虐待などの早期発見、早期対応に向けて取り組みや生徒指導体制が機能している。	76	→				

キャリア教育との関係が深いにも関わらず、道徳的心情や規範意識の育成が不十分な現状がある。道徳的価値への児童の気づきが困難な側面もあるが、既存教育活動との連動をもっと意識した指導(授業)が必要。

【清掃・校内美化】

		今回	前回差
児童	美田北小は、きれいにそうじができていて、気持ちよく過ごせる。	51	やや↑
教職員	清掃や給食に関する指導、校内美化に取り組んでいる。	52	やや↑

「一定評価(認識)」まで達するようになった。児童、教職員ともに改善努力がうかがえる。

いかなるアンケートや手法を用いても、一面的にしかその状況を捉えきれないことをご理解願います。

【学習指導】

		今回	前回差			今回	前回差
児童	授業は、わかりやすい。	69	→	児童	授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。	47	やや↑
保護者	子どもは、授業がわかりやすいと言っている。	46	→	教職員	学習が遅れがちな児童への対策を、全体的な課題として取り組んでいる。	72	→
教職員	各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。	53	やや↑	教職員	教職員は、学力向上に向けた活動(放課後学習、授業と関係しての学年の取組、家庭学習習慣定着の取組(宿題)、広報、他)に取り組んでいる。	77	やや↑
児童(低)	授業やいろいろな会で、友達の発表を終わりで聞くことができる。	54	やや↑	児童	朝の学習や読書に、しっかりと取り組んでいる。(1時間目が始まる前に行うプリント学習などのことです)	77	→
児童(高)	授業で友達の発表を終わりで聞いて、質問したり自分の意見を言ったりすることができている。	54	やや↑	教職員	子どもは、朝の学習や読書に取り組んでいる。	71	↑
教職員	児童の実態をふまえ、指導方法の工夫・改善に努めている。	63	やや↑				

「通常授業」に関してより、「放課後学習」や「朝の学習や読書」など学力補充関係の方が高い評価(認識)の傾向にあるが、全体的に改善が進んでいることがうかがえる。

【説明・連携、その他】

		今回	前回差			今回	前回差
保護者	学校は、教育活動(各種取組、学習内容、進捗等)を、学校・学年・学級によりやHP、その他によってわかりやすく伝えている。	61	→	保護者	学校は、保護者・地域の願いに応えている。	32	→
保護者	台風などの場合の学校対応(集団下校を含む)について、保護者は知らされている。	86	→	教職員	学校は、保護者・地域の願いに応えている。	56	↑
教職員	学校・学年・学級の「たより」や通知文、HP、各種説明会や懇談会で説明責任を果たしている。	80	やや↑	保護者	学校は、児童の安全確保、事故防止に取り組んでいる。	61	→
保護者	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	60	→	教職員	学校は、児童の安全確保、事故防止に取り組んでいる。	82	→
教職員	生活指導やその他において、家庭への連絡を適切に行い、意思疎通や連携に努めている。	70	→				

「説明」「連携」に関しては保護者、教職員とも高い評価(認識)。「願いへの応え」についての保護者からの評価(認識)は、今回もやはり、他の設問と比べて低い。

【今回、特に設けた設問】 □内の数字は多変量解析値 < >内は回答者

◇英語活動の授業では、英語をしゃべろうとしたり、聞き取ろうとしたりしている<5,6年生>
73(かなりの評価(認識)) → 昨年度本市学習状況調査時点より特段の改善。

◇6月に配付された「家庭学習の手引き」を読み、参考にしてている<保護者>
26(さらに工夫を要する) → 昨年度学校アンケート②の時点より明らかな改善効果がみられるが(+35)、まだまだ工夫・改善を要する。

今回結果を前年度同期と比べた場合、児童の評価(認識)については小さいながらも上昇(改善)が、保護者の評価(認識)については昨年度上昇(改善)分の維持がうかがえましたが、「道徳教育(道徳性の育成)」に関する停滞も浮き彫りにもなりました。ついでに、キャリア教育の視点に立った既存の教育活動と的確なリンクを図って道徳性の涵養を進めていくとともに、H27年度に英中校区で取り組む「豊かな人間性をはぐむ取組み推進事業」(大阪府事業)の活用(夏季休業中に2回、11月に1回の研修会、10月オープンスクール時に「道徳」公開授業、他)を充実させ改善を進めて参ります。

意図的に仕掛けを施した教育活動はもちろん、日々の出来事(もめ事等)についても、子どもたちが「考え」、「気づき」、「学ぶ」中で、「つながり」や「思いやり」等が醸成され成長していく機会になります。「考える」「気づく」「学ぶ」が起こる場所(=安心してモメられる場所)づくり、それが「集団づくり」と考えております。モメながらも安心して学べる学級が子どもたちの「安心な居場所」となりえます。保護者、地域の皆様には、このような視点を踏まえてお子さまの学校生活を捉えていただけると有難いです。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。